

都市大エコ1チャレンジカップ



中・高生が手作りEV競う

最高時速が30km/hのクルマもあった

東京都大学(北澤宏)学長、東京都世田谷区)は23日、東急自動車学校(東京都多摩市)で「都市大エコ1チャレンジカップ2014」を実施した。中学・高校生による手作りの自動車(EV)のコンテストで、首都圏を中心に1都6県から16校18チームが参加し、最高時速が35km/hの車両「大波」を作成した茨城県立波崎高等学校(茨城県神栖市)が優勝した。

このイベントは、クルマづくりを通して中学生にもつくりの楽しさや重要性、エネ

ルギー問題を認識してもらい、創造性に富む人材を育成することを目的に行っている。中学生と高校生が対象。3輪以上で停止時に自立する構造の車両を、大会実行委員会が事前に送付する市販の12V3ア時以下のバッテリー2個を使用して作るこ



中高生らしいユニークなデザインの中高生も多かった

自動車の基本性能である「走る・曲がる・止まる」をチェックするための車検も実施した。競技は1周500mのコースを10周し、走行タイムを競う。優勝した波崎高校のタイムは13分57秒。前回の経験を生かし、「フエアリンクやナットのサイズなど細かい改良を重ねたことが勝利につながった」という。

茨城・波崎高校「大波」が優勝

また、同競技は速さが重要ではあるものの、走のきつたためにも多い。2位の和光学園和光中学校(東京都町田市)は「近隣のスーパーの駐車場を貸してもらい、広い場所で練習した」という。その他にも、ドライバーは周回毎に交代するルールがあるため「ヘルメットにカメラを付けて、路面状況を他のドライバーに伝えた」という学校もあり、勝利のために様々なアイデアを実行していた。

大会実行委員会の湯本雅恵副会長は「中学生にもつくりの達成感を味わってほしい」と話す。参加者からは、「モーターや発電機の関係に興味を持つようになった」という声もあり、中学生にもつくりの楽しさを知ったためか、かきとったようになった。(林 里奈)

速くかつ完走めざし創意工夫

各チームは、車両の軽量化をはじめ、流体力学を考慮したボディデザイン、伝道ロスの少

ない駆動系統など創意工夫を凝らしたクルマを作成。競技前にはブレーキが作動するかなど、

は、バッテリーの消耗を抑えることも重要だ。そのため、ドライビングテクニックを磨いたチー